

動物型スライム 昔地球に現れた地球外生命体。進化の過程で動物の姿に形を似せたスライム状の生き物。DNAを取り入れる、且つ真似る能力が高いという条件で本物の生物と同レベルの肉体を得られる。人間主体の社会のため、ヒト化に憧れる個体が多い。

魂喰らい スライムの状態は自在に変形出来る。他の個体のスライムと同化し取り込むことも可能。取り込まれた個体は自我を消され、体の一部と化す。動物型スライムの規則的に重罪。

七篠のら 猫型スライム スライムの姿の方が働かなくても、人間におねだりしてペット感覚でごはんもらえるし、最悪そこら辺の有機物消化して生きながらえるからヒト化したいと思わない。

七篠は6つのスライムの魂を食べた魂喰らいに食べられる。しかし、魂喰らいの人格は崩れ、七篠の人格は生き残る。(思いどおりに死んでたまるかって強い意志で足掻いた結果か、それとも別の理由か?)

魂を一度でも喰らってしまうと、魂を食べたくなる欲求が渦巻くようになる。七篠は被害者だが危険因子、罪人のように扱われ幽閉される。魂を食べたくなる欲求をかき消すため、魂を取り込めない身体にするためヒト化する。(ヒト化するためのDNAは以前仲良くしてくれた釣り人から友情の証としてもらった)

ヒト化した後、危害を加えない存在と判断され釈放されるが、周りから畏怖の目で見られ厄介払いされるように街から追い出される。

追い出された際にいくら金もらったものの行く宛もなくタダ遠くへと進んでいくうちに尽きてしまって行き倒れる。

けんに助けられる。弱みを見せるのは嫌なため、助けてもらったけんの家に強引に居座るみたいな形で居候になる。けんのいる街は七篠の居たところから遠いため、魂喰らいとしての存在を知られないまま居座ることに成功。

けんから人間社会を教えてもらう。働くのは嫌、面倒くさい、家事も全部やれとわがまま言うが、何処かで折れて渋々働いたり、サーモン食べて感動したり、紆余曲折ありで馴染んでくる。

けんと文句言い合いながらも家族レベルに絆が深まったところで魂喰らいであったことを知られて何かおこるとか、魂喰らいという存在であったがために何かしらの事件が起こる。

事件解決する。

けんはヒト化歴長い動物型スライム(犬)でも人間でもいいです。小説の始まり自体はけんと七篠が出合ったところでも、会ってから日が経っててもいいです。小説の主人公、視点はけん、七篠どちらでも可

七篠のら(ななしののら)、性格：面倒くさがり 自分が一番 立ち位置が自分の方が上でないと嫌 緒方けん(おがたけん)、性格：真面目 世話やき 常識に囚われがち